

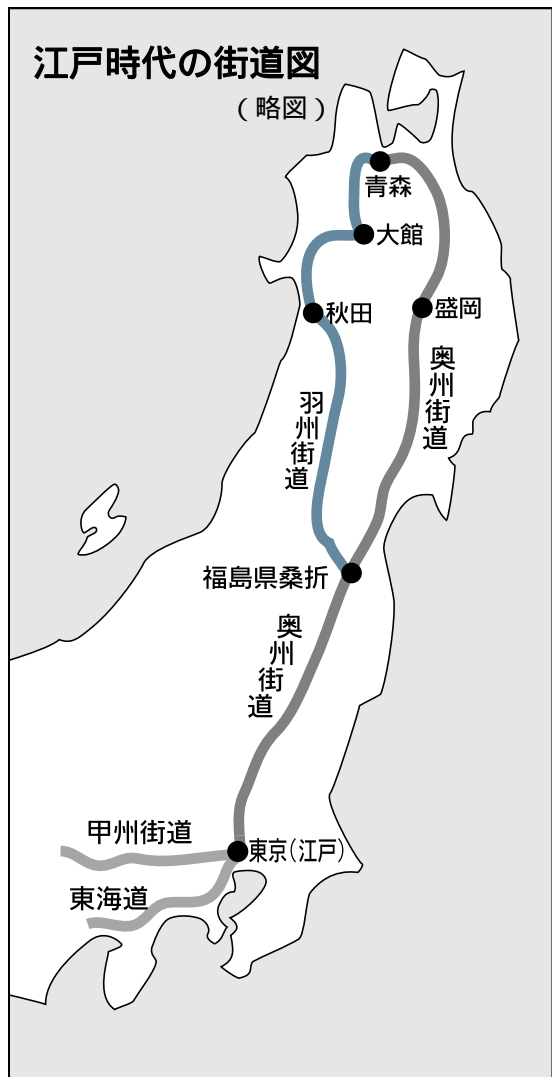
気になるもの



広報市民リポーターだより No. 6

リポーター

菅原伸二さん（御成町5丁目）



羽州街道はどんな道？

今では、自動車が必要品となっています。どこへ行くにも自動車を使い、歩くことは少なくなってきました。

「羽州街道」の歴史は江戸時代にさかのぼります。当時はもちろん自動車など、機械による交通手段はなく、もっぱら徒歩での移動です。そして交通路はすべて江戸を中心とするものでした。そのうち特に重要な5街道の中の奥州街道（現在の東京～盛岡～青森）から、羽州街道は分岐します。福島県桑折町から始まり山形県へ。上山、山形、山形藩、新庄藩の領内を通過、雄勝峠から秋田県に入り、矢立峠を経て青森に至ります。羽州街道の道筋の大半は、ほぼ現在の国道13号と7号の原型をなしています。

街道とはいうものの、大きな河

川では橋が作られず、歩くか舟で渡る場合が少なくなかったと伝えられています。また、人々の往來の便を図るといふよりも、江戸幕府や各藩の役人、津輕藩の参勤交代の通行のために、街道が維持されていたようです。

市内のルート

岩瀬～大館神社

さて、この羽州街道、市内ではどのようなルートをたどっていたのでしょうか。田代町岩瀬地区から市内へ入ります。立花を通り、長木川を渡って餅田へ。そして美園町のY字路で国道と分かれ、街道は市道を南下、御坂地区を通りまです。途中の片山1丁目には、江戸時代に相撲の興行が行われたという「八坂神社」が鎮座しています。街道は大館神社へと続きます。

水運の要所・舟場

街道をそれて大館神社を直進すれば、かつての米代川水運の要所「舟場（根下戸字下袋）」へと至ります。舟場は対岸の板沢と共に、大館の川の玄関口で、水運が盛んであったころはたいへんにぎわったといえます。

常盤木町～長木川の渡し

さて、街道に話を戻し、大館神